

# 位相空間のコホモロジーと選択公理

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2012年2月6日

定義.  $X$  を集合,  $G$  を群とする. 次の条件を満たす  $(T, p)$  を  $X$  上の  $G$ -torsor という.

1.  $p: T \rightarrow X$  は全射である.  $p$  を射影という.
2.  $G$  は  $T$  に右から作用する.  $g \in G$  の  $t \in T$  への作用を  $t^g$  で表す.
3. 任意の  $t \in T$  と  $g \in G$  に対し  $p(t^g) = p(t)$ .
4.  $p(t) = p(s)$  を満たす  $t, s \in T$  に対し, ある  $g \in G$  が一意に存在して  $s = t^g$  となる.

例.  $T := X \times G$ ,  $p(x, g) := x$ ,  $(t, g)^h := (t, gh)$  と定めれば  $(T, p)$  は  $X$  上の  $G$ -torsor になる.

定義.  $G$ -torsor  $(T, p)$ ,  $(T', p')$  が同型

$\iff$  全単射  $T \rightarrow T'$  で射影と群作用と可換になる (即ち  $p'(f(t)) = p(t)$  かつ  $f(t)^g = f(t^g)$ ) ようなものが存在する.

定義.  $X$  上の  $G$ -torsor の同型類がなすクラスを  $H^1(X, G)$  と書く.

先の例により  $X$  上の  $G$ -torsor は少なくとも一つ存在するから,  $H^1(X, G) \neq \emptyset$  が分かる.  $G$ -torsor  $X \times G$  が属する同型類を  $1$  で表すことにする. 即ち  $1 \in H^1(X, G)$ .

定理. 選択公理  $\iff$  任意の集合  $X$  と任意の群  $G$  に対して  $H^1(X, G) = \{1\}$

証明. ( $\implies$ )  $(T, p)$  を  $X$  上の  $G$ -torsor とする.  $(T, p)$  が  $X \times G$  と同型であることを示せばよい.  $p$  は全射だから選択公理によりある写像  $s: X \rightarrow T$  が存在して  $p \circ s = \text{id}_X$  を満たす. このとき  $f: X \times G \rightarrow T$  を  $f(x, g) := s(x)^g$  で定義すれば  $f$  は同型である.

( $\impliedby$ )  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を互いに素な非空集合の族とする. ある集合  $S$  が存在して任意の

$\lambda \in \Lambda$  に対し  $|X_\lambda| = |S|$  であると仮定してよい。

集合に関する命題の定理 2 を参照。

$G$  を  $S$  の置換がなす群として,  $T_\lambda := \{t: S \rightarrow X_\lambda \mid t \text{ は全単射}\} \neq \emptyset$ ,  $T := \bigcup_{\lambda \in \Lambda} T_\lambda$  と置く.  $G$  は  $T$  に  $t^g := t \circ g$  によって作用する. 射影  $p: T \rightarrow \Lambda$  を  $T_\lambda$  の元を  $\lambda \in \Lambda$  へ写す写像とすれば,  $(T, p)$  は  $\Lambda$  上の  $G$ -torsor である. 仮定により同型  $f: T \rightarrow \Lambda \times G$  が存在する. 今  $s: \Lambda \rightarrow T$  を  $s(\lambda) := f^{-1}(\langle \lambda, \text{id}_S \rangle)$  で定めると  $f$  が同型であることから  $s(\lambda) \in T_\lambda$  である. そこで元  $a \in S$  を一つ取り,  $\varphi: \Lambda \rightarrow \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  を  $\varphi(\lambda) := s(\lambda)(a)$  で定めれば  $\varphi$  が選択関数である.  $\square$

定理. 選択公理  $\iff$  任意の集合  $X$  と任意のアーベル群  $G$  に対して  $H^1(X, G) = \{1\}$

証明. ( $\implies$ ) 明らか.

( $\impliedby$ ) 選択公理と同値な次の命題を示す.

集合族  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  が「任意の  $\lambda \in \Lambda$  に対し  $|X_\lambda| \geq 2$ 」を満たすとするとき,  $\Lambda$  上の写像  $f$  が存在して, 任意の  $\lambda \in \Lambda$  に対し  $f(\lambda) \subsetneq X_\lambda$  かつ  $0 < |f(\lambda)| < \infty$ .

the Axiom of Multiple Choice の定理 2 を参照.

$\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を「任意の  $\lambda \in \Lambda$  に対し  $|X_\lambda| \geq 2$ 」を満たす集合族とする.  $\{X_\lambda\}$  は互いに素としてよい.  $X := \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  と置いて,  $G$  を  $X$  で生成される自由アーベル群とする. 即ち任意の元  $g \in G$  は

$$g = \prod_{x \in X} x^{n(g,x)}, \quad n(g,x) \in \mathbb{Z}, \quad \text{有限個の } x \in X \text{ を除いて } n(g,x) = 0$$

と表示される.  $\lambda \in \Lambda$  に対して  $n(g, \lambda) := \sum_{x \in X_\lambda} n(g, x)$  と定める.

$$H := \{g \in G \mid \text{任意の } \lambda \in \Lambda \text{ に対して } n(g, \lambda) = 0\}$$

$$T_\lambda := \{g \in G \mid n(g, \lambda) = 1, \text{ 任意の } \mu \neq \lambda \text{ に対して } n(g, \mu) = 0\}$$

と置けば  $H \subset G$  は部分群で, 乗法により  $H$  は  $T_\lambda$  に作用する.  $T := \bigcup_{\lambda \in \Lambda} T_\lambda$  として, 射影  $p: T \rightarrow \Lambda$  を  $T_\lambda$  の元を  $\lambda \in \Lambda$  へ写す写像とすれば,  $(T, p)$  は  $\Lambda$  上の  $H$ -torsor である. 仮定により同型  $g: T \rightarrow \Lambda \times H$  が存在する. 今  $e \in H$  を単位元として  $s: \Lambda \rightarrow T$  を  $s(\lambda) := g^{-1}(\langle \lambda, e \rangle)$  で定めると  $g$  が同型であることから  $s(\lambda) \in T_\lambda$  である.  $f(\lambda) := \{x \in X_\lambda \mid n(s(\lambda), x) > 0\}$  と置く.  $s(\lambda) \in T_\lambda$  だから

$\sum_{x \in X_\lambda} n(s(\lambda), x) = n(s(\lambda), \lambda) = 1$ , 故に  $f(\lambda) \neq \emptyset$  である . また  $n(s(\lambda), x) \neq 0$  となる  $x \in X_\lambda$  は有限個だから  $|f(\lambda)| < \infty$  となる . 更に ,  $|X_\lambda| \geq 2$  だから ,  $f(\lambda) \subsetneq X_\lambda$  であることも分かる . 故にこの  $f$  が条件を満たす . □

## 参考文献

- [1] Andreas Blass, Cohomology detects Failures of the Axiom of Choice, Trans. Amer. Math. Soc. 279 (1983), 257–269, <http://www.ams.org/journals/tran/1983-279-01/S0002-9947-1983-0704615-7/home.html>